

22. アメリカカンザイシロアリ発生事例

○元木 貢・原正次郎

(アベックス産業株式会社)

2012年10月16日、築40年を越える鉄筋コンクリート5階建ての病院で、3階にある病室の木部窓台部分で被害が発見された。病院から木部に虫による被害が出たとのことで調査したところ、噴出孔から特有の糞が排出され、被害部分でシロアリの職蟻と兵蟻が確認され、アメリカカンザイシロアリと同定された。被害は窓台全体に広がっていたが、室内及び病院内の他の木部部分には被害は見られなかった。病院と同じブロックと、通りを隔てたブロックを調査したところ、各所に糞が見られ、外壁や塀に被害が散見された。数軒隔てた空き家には敷居部分に堆積した糞が多数見られ、地域一帯に繁殖している様子がうかがわれた。

翌2013年4月4日、1階診察室の窓台木部に糞及び噴出孔を確認、被害部分周辺を穿孔し薬剤処理した。

さらに2014年4月15日、5階更衣室の窓枠に被害確認、被害部分周辺を穿孔、薬剤処理した。また、1階外周ゴミ置場の木部に被害が発見された。

アメリカカンザイシロアリの羽アリが2013年4月に鉄筋コンクリートの病院の3階病室の窓枠の隙間から侵入し、わずかな木部である窓台の内部で繁殖していた。続いて2013年4月に1階で、2014年4月には5階更衣室の窓枠、1階ゴミ置き場でも発見された。このことは、有翅虫が本地域において高密度に発生し、わずかな隙間からでも侵入し繁殖することを示している。富岡らによれば、同地域において9年間で約6倍に被害家屋が拡大していることから、アメリカカンザイシロアリの今後の被害の拡大、定着が懸念される。